

研究報告
(研究プロジェクト5)

オリンピックと芸術文化

津田博子 (ダンス・伝統芸能研究室)

1. 進捗状況報告

(1) 札幌出張について

2017年3月14日(火)～16日(木)に、北海道国際大学、札幌市スポーツ局、札幌オリンピックミュージアムを視察した。

14日には、札幌国際大学教授、小林秀紹氏にお会いし、札幌オリンピック招致に関する道民の意識とアジア大会の様子についての聞き取りを行った。

15日には、札幌市スポーツ局招致推進部長・梅田岳氏、札幌市スポーツ局招致推進部調整課推進担当係長・戸叶茂樹氏、札幌市スポーツ局招致推進部調整局推進担当係・佐久間大輝氏にお会いし、以下の聞き取りを行った。事前に用意した質問事項に対して詳しい資料を収集し聞き取り調査を行うことができた。

1. オリンピック・パラリンピック教育(学習)について
2. オリンピック・パラリンピックムーブメント推進事業について
3. オリンピック・パラリンピックが残したもの(レガシー)
4. オリンピック・パラリンピック後の冬季スポーツの推進・浸透
5. オリンピック・パラリンピック後のメリットとデメリット
6. オリンピック・パラリンピックの芸術展示について

7. オリンピック・パラリンピックの文化イベントについて(展示以外)

8. オリンピック・パラリンピックの開会式の演技内容について

9. オリンピック・パラリンピックの閉会式の演技内容について

10. その他

この時に、資料として1972年の札幌オリンピックの公式報告書の資料、一部抜粋として「第3章市民の協力」「オリンピック関連事業」札幌市教育委員会のオリンピック学習の手引き、2026年北海道オリンピック・パラリンピック冬季競技大会開催提案書を頂いてきた。

16日には札幌オリンピックミュージアム館長・菊池美智子氏の案内で新しくリニューアルし、スイスローザンヌのオリンピックミュージアムと提携された館内を案内してもらい、説明を受けることができた。今後、このオリンピックミュージアムに貯蔵されている、1972年札幌オリンピックの資料等の閲覧と収集の確約をとることができた。再度、訪問して資料収集を行う予定である。

(2) オリンピックにおける文化プログラムの開催について

オリンピック憲章によると、オリンピズムの根本的原則は、1. オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツと文化、教育を融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い

模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。

(3) オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和的な社会を奨励することを目指し、スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てることにある。と提言している。

太下義之「オリンピック文化プログラムに関する研究及び、「地域版アーツカウンシル」の提言」によると、近代オリンピックにおける文化的要素の変遷は、以下のようになる。

- 1) 1896～1908年 第1回アテネから第4回ロンドン「万国博覧会」の時代
- 2) 1912～1948年 第5回ストックホルムから第14回ロンドン「芸術競技」の時代
- 3) 1952～1988年 第15回ヘルシンキから第24回ソウル「芸術展示」の時代
- 4) 1992～2008年 第25回バルセロナから第29回北京「文化プログラム（文化イベント）」の時代
- 5) 2012～現在、第30回ロンドンからは、「新しい文化プログラム」の時代といわれている。

1964年の東京オリンピック、1972年の札幌オリンピックはどちらも、「芸術展示」の時代にあたる。

今後、このような時代区分におけるオリンピックの芸術分野についてどのような催し物があったかを調べ検討していく。

例えば、札幌冬季オリンピック（1972）における文化プログラムについて、文部科学省による「札幌オリンピック冬季大会と政府機関等の協力」（昭和47年発行）によるとオリンピック憲章第31条の規定に基づいて札幌大会の芸術行事は以下のように実施されている。以下 行事名と期間を挙げる。

- 1) NHK 交響楽団演奏会：1月29日（土）、
- 2) 北国の芸能：2月1日（火）、
- 3) ミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団演奏会：2月2日（水）

- 4) 札幌交響楽団演奏会：2月4日（金）
- 5) 歌舞伎公演：2月5・6日（土・日）
- 6) 能公演：2月8・9日（火・水）
- 7) 市民劇場「バレエ」公演：2月10日（木）
- 8) 江戸浮世絵名作展：1月25日（火）～2月13日（日）
- 9) 大冬季オリンピック展：1月25日（火）～2月13日（日）
- 10) 第23回さっぽろ雪まつり：1月27日（木）～30日（日）
2月3日（木）～6日（日）
- 11) 日本の現代版画展：2月1日（火）～10日（木）
- 12) 写真展「日本」－自然・伝統・生活：2月1日（火）～13日（日）
- 13) 世界子ども美術展：2月1日（火）～14日（月）

ここに、記載されているのは、会場、行事の概要、入場者数である。

2017年3月に札幌に訪問した際、組織委員会の報告書のコピーを頂き、その概要が詳しく記されていた。報告書によると芸術行事の開催を具体的にするため、式典専門委員会に芸術行事小委員会を設け、3回の会合を開き、芸術部門6、芸能部門7の計13種の芸術行事を決定したとある。

ここで、注目したい点は、組織委員会・NH・/札幌市北海道の主催で行われた、北国の芸能である。行事内容として冬のスポーツの祭典にちなんで、東北、北海道に古くから伝わる素朴で優れた伝統芸能の中から18演目の民族芸能と民謡を紹介している。北海道からは江刺追分（函館市・佐々木基晴他）、江差餅つきばやし（江差町・江差餅つき保存会）、にしん場音頭（積丹頂町・にしん場音頭保存会）北海盆歌「（札幌市・西崎栄美邦社中・札幌市民謡同好会）北海太鼓（登別市・北海太鼓連中）アイヌの唄と踊り（白老町・白老民族芸能保存会）、青森県から津軽じょんがら節（青森県 須藤栄子ほか）謙良節（青森県・久藤栄ほか）南部駒踊（青森県・南部駒踊石沢保存会）、

岩手県からは百姓踊(岩手県・立石百姓踊保存会), 宮城県からは, さんさ時雨(宮城県・加賀徳子ほか), 田植踊(宮城県・秋保田植踊保存会), 大漁唄いこみ(宮城県・熊谷一夫ほか), 秋田県からは, 秋田おばこ(秋田県・浅野千鶴子ほか) 秋田にかた節(秋田県・浅野和子ほか), 根子番学(秋田県・根子番学保存会), 山形県からは, 大黒舞(山形県・谷地大黒舞保存会), 花笠踊(山形県・尾花沢花笠踊保存会)と, その地域の素朴で民族的な芸能が披露されたことである。

さっぽろ雪まつりもまた, 芸術か否かの議論を経て, 市民のアイデアや協力により, 大雪像のアイデアを市民から募集し, 249件から7件を採用した。また雪像数は223にもなり, 観客の目を楽しませた。

また, 開会式のセレモニーとして注目度が集まったのは, 子供たちが色とりどりの風船を空に飛ばす場面であった。今後は開会式と閉会式のセレモニーの民族関係のことについても今後調査していくことにしている。

(受理日: 2018年1月31日)